

## 国外伝道働き人より各国の新型コロナ対応状況のお知らせ

国外伝道働き人のみなさんより、現在のそれぞれの地での新型コロナ対応状況、教会の様子などお知らせいただきました。どうぞおぼえてお祈りください。

### ■インドネシア 野口日宇満宣教師・野口佳奈宣教師より

現在の新規感染者数は、約6~7000人/日が報告され、今年2月1日のピーク時から減少していますが、5月の断食明けの休暇の帰省の影響で再び感染が拡大しています。子どもたちのインターナショナルスクールもしばらく前にようやく対面授業が再開されましたが、地域の感染が再拡大したことにより、再びオンラインでの授業に戻り、そのまま夏休みに入りました。チャンディ教会や神学校など、私たちの周りの身近な人たちで感染する方もおられます。神学校の講義はすべてオンラインで、教会での礼拝は対面とオンラインの併用で行われています。ワクチン接種は、高齢者、医療従事者、公務員、教員、宗教指導者などから始まり、早期に国民全体に行き渡るように進めていますが、収束に至るまでにはまだ時間がかかると思われます。(6/10 現)

### ■カンボジア 嶋田和幸宣教師・嶋田薫宣教師より

コロナ危機発生以来、カンボジアでは比較的感染が抑えられてきましたが、今年2月20日に発生したプノンペン市中感染以来、感染がカンボジア全土に広がっています。学校が全国で休校になり、子どもの学校も再びオンラインとなりました。4月14日からプノンペン市内はロックダウン（首都封鎖）となり、3週間続きました。ロックダウン中は、食料の買い出しや緊急の場合などを除いて外出が制限されました。幸い私たちの集合住宅の敷地内では、散歩や軽い運動する自由があり、生活は守られました。ロックダウン後も感染は続いており、新規感染者5~800人/日で推移しています。ワクチン接種は進んでおり、接種可能なのは中国製ワクチンのみですが、6月中旬の時点で国民の30%程度が接種を終えています。CBU オフィス教会の礼拝は、今年4月よりメッセージ（フェイスブック）を利用してオンライン礼拝をしています。(6/15 現)

・嶋田両宣教師は7月より2カ月の予定で定期帰国をいたします。

また、8月28日（土）13時より報告会を予定しています（ZOOM）。帰国準備のためお祈りください。またぜひ報告会にご参加ください。詳細は7/21 全国発送、連盟ホームページにて。

### ■シンガポール 伊藤世里江 AMC より

感染を順調に収束させているかにもえたシンガポールでしたが、4月末から急速に変異株を中心とするクラスターが発生し、5月16日からファイズ2と呼ばれるソフトロックダウンに再び入りました。しかし、1カ月の厳しい制限措置を通して、市中感染者が一桁まで抑えられ、6月中旬から徐々に規制が緩和させてきました。橋一つを経た隣国マレーシアは人口当たりの感染はインド以上とも言われる感染状況となり、全土でのロックダウンとなっています。ワクチン接種は順調に進み、6月中旬現在、12歳から16歳の子もたちへの接種も進められています。4月以降、子どもたちへの感染が多かったためです。礼拝、諸集会はオンラインのみで行われていますが、7月から8月からまた対面での礼拝の可能性も出てきました。海外との行き来は当分、厳しい規制のもととなります。(6/10 現)

### ■ルワンダ 佐々木和之 IMV より

ルワンダは2021年3月以降、私が暮らす南部州内で感染拡大が顕著になり、夜間営業・外出禁止時間の拡大や郡をまたいで移動禁止など、規制措置が強化されていました。しかし、4月下旬から新規感染者数が顕著に減少したため、6月に入って大幅に規制が解除されました。私が日常的に関わっているPIASSの学生や同僚たちの中でも、これまでに6名が感染しましたが、幸いに重症化することなく回復しました。PIASSでは昨年末から、感染予防対策をとりながら対面授業を継続しています。教会は、収容人数の5割以内であれば、礼拝に集うことが許されています。3月上旬からワクチン接種が始まり、6月11日現在、接種を受けた人々の総数は約38万人、人口の約3%に留まっています。ルワンダではまだ変異株が確認されていませんが、隣国のウガンダでは変異株の流行に伴い、再び学校や宗教施設が全国一斉に閉鎖されています。アフリカ諸国は今後もワクチン不足が予想されるため、予断を許さない状況が続きます。(6/12 現)